

病害虫 防除だより

No. 327

平成31年4月5日

イネ苗立枯病の防除は適正な温度管理が重要です!!

4～5月の気温は平年並みから高く、数日の周期で変わる見込みです。苗が5℃以下の低温や30℃以上の高温にあうと苗立枯病が発生しやすくなります。播種時の薬剤散布と適正な温度管理により、健苗づくりに努めましょう。また、育苗箱は必ず洗浄、消毒したのを使いましょう。

1) 育苗温度

浸種期間……20℃を超えないようにする。

出芽期間……30℃を超えないようにする。

育苗期間……夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないようにする。

■気温が高いと細菌性病害が発生しやすいので、快晴時には早めにハウスの換気を行う。

■夜間の温度が低いと、カビによる立枯病が発生しやすいので、保温に努める。

2) 水管理

■天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。

■ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。

3) 床土

■病原菌に好適な環境にしないよう、pHは4.5～5.1程度とし、厚播き・多肥は避ける。

4) 薬剤防除

(※30cm×60cm×3cm)

対象	薬剤名	使用時期	使用濃度	使用量/箱*	使用回数
フザリウム菌	タチガレン液剤	播種時及び発芽後	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
ピシウム菌 ムレ苗防止	タチガレエースM液剤	播種時又は発芽後			1回
リゾプス菌	ダコニール1000	播種時から緑化期 但し 播種14日後まで	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
			1000～2000倍	1L灌注	
トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し、 播種14日まで	400～600倍 800～1200倍	0.5L灌注 1L灌注	2回以内
幼苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌) 褐条病 苗立枯細菌病	カスミン粒剤	覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5畝) 1箱当たり 15～20g	1回

■もみ枯細菌病等の細菌性病害は、発生後の防除薬剤はない。特に5月中旬移植用の苗で、ハウス内の高温、多湿が予想される場合は、播種時に前もって薬剤防除する。



ピシウム菌による
苗立枯病 (ムレ苗)



フザリウム菌



苗立枯細菌病



褐条病

☆最新の農薬登録情報(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt11p301.jsp>)を確認して下さい。

農業試験場 病害虫防除室

連絡先 0776(54)5100(代)

農薬の飛散に注意しましょう

農薬の安全使用に努めて適期防除しよう